



今日から始める

自然観察

落葉樹に宿る ヤドリギを探そう!



お ざ き け ん じ
尾 崎 煙 雄

千葉県立中央博物館

ヨーロッパには「クリスマスにヤドリギの下でキスすると幸せになる」という言い伝えがあり、万葉集にも詠まれた植物。ヨーロッパから日本まで分布し、その不思議な生態ゆえに人々を引きつけてきたヤドリギを観察してみましょう。



ヤドリギと

まちが

間違いやすいもの



ヤドリギと間違いやすいもの、その1。カラスの巣。ヤドリギと違って、必ず枝のまたの部分にある。



ヤドリギと間違いやすいもの、その2。てんぐ巣病。拡大して見れば、ヤドリギと違って無秩序に分枝しているのが分かる。



冬に目立つヤドリギ。この写真では大きなケヤキに10個体ほどのヤドリギが寄生している。ヤドリギは大きな株では直径1mほどになる。

ヤドリギってどんな植物？

ヤドリギはほかの樹木の枝に根を差し込んで養分や水分を奪う寄生植物です。ただしヤドリギ自身も光合成をして養分の一部を自給しています。樹木の枝や幹に寄生する植物は世界の熱帯から温帯に約千種が知られています。日本にも六種が分布し、その中でヤドリギは最も北にまで分布する種です。

種としてのヤドリギはユーラシア大陸の温帯に広く分布し、いくつかの亜種に分けられています。ヨーロッパの平野部に分布するのは白い実がなるセイヨウヤドリギという亜種です。淡黄色の実がなる日本産のヤドリギは中国や朝鮮半島と共通の東アジア亜種で、国内では北海道から九州にかけて分布します。なおヤドリギは雌雄別株で、実がなるのは雌株だけです。

日本産のヤドリギが寄生する相手（ホストといいます）はすべて落葉広葉樹です。本州中部以南の平野部ではケヤキやエノキ、そしてサクラなどのバラ科樹木に寄生する例がよく見られます。山地や北日本ではナラ類やブナ、シラカバ、ナナカマドなどによく寄生しています。ただしこれらは代表的な例です。

どうやってそんなところに？



ヒヨドリなどもヤドリギの実を食べるが、冬鳥のヒレンジャクとキレンジャクがこの実を好み、最も種子散布に貢献しているようだ。ヨーロッパではヤドリギツグミという鳥がセイヨウヤドリギの実を好むことが知られている。写真はヒレンジャクがねばねばしたフンを出しているところ。(写真：梶野敬二)



ヤドリギの実には種子が1個入っていて、鳥のフンに混じって散布されるが、地面に落ちたら生きられない。粘着性のある種子が上手くホストの枝にくっつく写真のように発芽して緑色の胚軸（はいじく）を伸ばし、吸盤状になった先端部から寄生根を侵入させる。ただし、寄生の成功率は決して高くはないようだ。



ヤドリギに寄生されたケヤキの枝の断面。枝の中心に向かってくさび状に伸びているのがヤドリギの寄生根。寄生根がホストの枝に錐(きり)のように食い込んで行くというよりは、ホストの組織が寄生根を包み込むように肥大しているように見える。

ヤドリギの仲間の実



ヤドリギの枝はふつつ毎年2分岐し、枝先に1対の葉が付く。3月ごろ枝先に小さな花が3つ咲き、雌株であれば翌冬に直径7mm程の実が淡黄色に熟す。



アカミヤドリギ（亜種ヤドリギの中の品種）は実が赤く熟し、北日本に多く見られる。深紅から黄色に近い橙色まで赤味の強さには幅がある。



本州の山地には落葉広葉樹に寄生する別種のホザキヤドリギが分布する。ホザキヤドリギ自身も落葉性だが、冬になると鮮やかな黄色の実が目立つ。

ヤドリギの実にある5つの黒い点は何でしょう？

QUIZ



答えは35 ページ

ほかにも多様な落葉広葉樹がホストになります。ホストが落葉する冬は、常緑性のヤドリギが目立つため観察の適季です。多くの場合、一本のホストに数十個体のヤドリギが寄生していますが、時には百以上も寄生する例もあります。あまり多く寄生されるとホストが枯れることもあります。たいていは共存しているようです。

冬にヤドリギを探すと、レンジャク類に出会うこともあります。ヤドリギが多い場所とまったく見つかからない場所があることにも気が付くでしょう。また、落葉樹にしか寄生しないのは、ヤドリギが冬季に光合成することが重要なかもしれません。ヤドリギの生態にはまだ多くの謎があります。ヤドリギを見つけたら、皆で地図に記録したり、一年を通じて観察してみたいかがでしょうか。